

**今、伝えたい体験と、私たちの取り組み
事例からわかったこと**



2013.6.17 中四国地域食育フォーラム 嘉村則男

山口市仁保上郷（大富地区）

旧山口市の最東端・最北部に位置し、大富集落は更にその最北部に位置します。

仁保地区 戸数 1,378戸

人口 3,535人

面積 356,65 km²

水田面積 433ha



大富地区 戸数 85戸(空き家15戸)

人口 200人弱 高齢化率65%

水田面積 42ha

平成の大冷害

平成5年に起きた大冷害は、私たち生産者に多くのことを教え気づかせてくれました。



化学肥料や農薬の大量使用の危うさ
やっぱり国産の農産物が求められている
食の安心安全が求められている



農業者の意識を変えた！

合鴨農法を始めてみて分かったこと

子ども達は興味津々で集まってくる

大人も後からついてくる

子ども達の興味は、見るから触るに変化する

見て触ったものが食べたいに変わる

命を頂く感謝の気持ちが生える

新しいコミュニケーションスペースができる

(コミュニティができる)

農業や農村のもつ力を実感した

《 農業や農村の役割は食糧生産だけではない 》

特に

学習・教育の場所

農地や小川は生きものが生きる場所

農地や山林は水をためる場所

私を受け入れてくれる場所

農業や農村が持つ多面的な機能を実感した。

この実感こそが、私の背中を押してくれた。

農業・農村の多面的機能の活用

《 当時は 》

農業・農村の持つ多面的な機能を、その土地に住んでいる人たちは理論づけられなくても、肌で感じていました。

一方都市住民は、大量生産・大量消費が常識とされた経済至上主義時代、農業・農村の役割や役目について、興味や関心を抱く人は少なかった。しかし、現在では都市住民の方が、農村部に暮らす人よりも強い傾向にある。

現実

それだけでは人が集まり、通り過ぎるだけ、活用できていない。

消費者はきれいな水が流れる清流が大好きです。川や新緑がたくさんある田舎が大好きです。でもきれいと思うだけ。

どうやって前に進むか

子ども達・消費者の足を、畑や水田、山や小川に向けさせ、五感を使って直に良さを感じさせたい、でもどうやって？

消費者のニーズ(整理してみた)

安全な農産物を自分たちで作ってみたい

生産物を直接畑で買いたい

子ども達を自然の中で遊ばせたい

田舎の伝統食(漬物など)自分で作ってみたい

ニーズに対応する準備

安全対策

すべての準備は安全に始まり安全に終わる

スタッフの確保と育成

人・もの・金、まずは人材の確保

フィールドの選定

地域に根差した活動にしたい

プログラムの作成

地域資源の掘り起こし

実際の体験プログラム

大人を対象にした、野菜やコメの栽培学習会

名称：野菜倶楽部

大人を対象にした調理加工体験学習会

名称：漬物倶楽部

子ども達を対象にした郷の食農体験学習会

名称：sato-yama of dreme s 親子で体験する郷の食農

名称：Daddy s チャ チャ チャ 頑張れお父さん！

名称：大富郷山散歩 …

名称：出前 講座 …

名称：おにぎり作り隊 園庭に田圃を作っちゃおう！

《 結果 》

このような取り組みを続けることによって、参加者はもとより、私たち生産者や地域にも変化が起こります。

体験に訪れる消費者はリピーターになりファンになってくれます。更に口コミで人は集まり、人集めで苦勞することはなくなります。

結果、野菜を作る小さな体験が、とんでもない大きなエネルギーになる可能性もあります。

例えば、どんな具体的な効果を生むか

子ども達の体験による**人間力教育効果**

自然の中で体験することによる**環境教育効果**

農産物直売による**経済効果**

食加工体験による**産業創出効果(6次産業)**

「まち」と「むら」の往来が生む**定住促進効果**

人を癒す**福祉効果**

・・・まだまだたくさんあります。

《さらにその先に見えるもの》

今、日本が病んでいること・・・それは子ども達の教育問題、環境問題、食糧自給率の問題、多発する犯罪、経済偏重の世の中...など、たくさん問題があります。しかし、ひょっとしたらこれらの社会問題は、こういった活動が解決の糸口になるのかもしれない。それは、取り組む人や組織の舵取りで大きく変わります。

一過性のイベントで終わるのか、生きた教育としての体験学習になるのか、更に、地域づくりに使えるのか、教育機関や行政の方だけではなく、農業者や地域も真剣に考えていただきたいのです。

☆ 目標・目的の設定《戦略～戦術》

活動を行う前に必ず目標や目的を設定する。



組織やスタッフの理念や信念が芽生える。



活動を進めるうえでの、迷いや悩みを解消する。



理念や信念が、心のこもったプログラムを生む。



体験参加者との、信頼と絆ができる。

いいプログラムのポイント

体験プログラムのどこを切り取っても、自分たちの立てた目標や目的、理念や信念に向けた取り組みになっている必要があります。



ここまで言うと少し窮屈に感じますが、決してそうではありません。



決め事やルールは私たちをととても楽にしてくれます。**行き当たりばったりはダメです！**

体験プログラム作りの具体的な 七つの基本理念(ポイント)

主体的な感性を養う

実践的学習

個性の尊重

人間関係の構築

生活習慣と自立心

自然や創作活動を通し豊かな情操を養う

健康の増進

☆ 食育・食農教育

「食育」「栄養」「食べ方」「食べるものがどこで作られているのか」「学習農園」 子ども達にご指導されていることと思います。



私が小さい頃や、当時の偉人と呼ばれた人たちは、貧しくとも親の背中をみて、家族の支えで尊敬される人になっていたように記憶しています。



私自身も決して裕福な家庭で育ったわけではありません、でも、こんなに大きくなりました。

しかし、

口は命の源、しかし、残念ながら食品はリスクがいっぱいです。

添加物	化学物質	微生物	細菌
農薬	プリオン	遺伝子組み換え	etc



栄養や食べ方に加えて、これらのことを、正しく子どもたちに伝えることができるのは、栄養教諭や給食関係の先生方です。

更にステップアップして、

農業生産者や地域と連携して、本物の畑や水田、農家の暮らしの中に入って、子ども達の体験教育をしてみませんか？



今の世の中を生き抜く力を身につけるには、知識だけ詰め込んだのでは活用できません。それを使う知恵を身に付けてこそ、子ども達の本当の生きる力になると信じています。

相乗効果(生産者が変われば・・・)

もっと大きな効果があります。それは生産者サイドのことなのです。



生産者が皆さん(消費者)と係ることで、変わるのは参加者だけではありません。本当に新しい価値観を見出し、変化していくのは生産者なのです。



生産効率ばかり考えていた農家が、「食の安全」や「農業の多面的機能」を実感する！

みんなの “ここが変わる。”

消費者が食の安心安全を強く望んでも、生産者の意識が変わらなければ、食の安心安全は守れません。

いくら生産者が一生懸命作った作物でも、生産者の気持ちや苦労は届きません。しかし、消費者が圃場に足を運べばその意識は変わります。買ってやる、売ってやる、食べてやる、食べさせてやるではありません。生産現場で体験することによって、みんなが食べるものの大切さに気付き、感謝する態度が身につくようになります。

農業体験・食農体験

畑や水田は大きな食卓です。食べるということはお腹を満たすだけではありません。自然の尊い命を食べるものに変えているということを、消費者の皆さんも生産者も気づかなければなりません。

大地は食卓です。この大きなテーブルに足を運んだ子ども達は、きっと食べるものへの感謝する気持ちや態度が身に付きます。

もちろん、大人の食に対する主体も取り戻せます。

☆ 農業体験を行う準備

農業体験は一過性のイベントではありません。



地域資源やプログラムの内容も大切ですが、



受け入れる側の理念・目標・目的を持つ



参加責任者と受け入れ側が理解しあう



何よりも大切なものは安全対策です！私達は、
人・自然・地域の命を預かるということなのです。

子どもの体験

結果も大切ですが、子ども達はそのプロセスを楽しむ、そこから多くのことを学びます。だからこそ、イベントではないのです。

畝を作り、マルチを張り、穴が開けられ側に種が準備してある。それは体験ではありません。「あれは無理」「これは無理」と言わずに、発育段階に応じたプログラムを作ってください。

その過程で、安全対策や事前準備、子ども達に伝えたいことが、指導者自身見えてきます。

大人の体験

大人は結果を求めます。スイカは甘くて、歯ごたえはシャキッ！とみずみずしい、蕎麦は長くツルツル喉越しさわやか、などと思いがちです。

体験することによって、苦勞を知り、新しい価値観が生まれます。その上に成果物がなくてははいけません。

大人の体験に限らず、食品衛生法・農地法・旅行業法・旅客業法・旅館業法など法律の知識が必要です。行政のアドバイスを受けてください。

理想的な体験圃場を作る

作物を栽培するうえで最も大変なことは雑草との戦いです。

日々、畑に通えない参加者にはその苦勞がわかりません。

最初の体験は、全ての過程を知るプログラムが良い、例えば**ジャガイモ栽培**は手輕です。

体験圃場の最も人目につく部分に、おばちゃん畑を併設する。参加者は見逃しません。

そのまなざしは、尊敬と感謝の気持ちに代わります。

指導者の服装や態度

特に子ども達は本物を喜び、指導者を尊敬します。尊敬は憧れに代わり、活力に代わります。参加者に比較的女性が多く目につきます。

ちょっと身なりに気を利かせると、対応が全く異なります。

その場(畑や水田)にそぐわない服装はよく見かけます。特に「まさに・・・」という服や長靴をよく見かけますが、アレはよくありません。

圃場での「たばこ」は厳禁です。喫煙は人目につかないところでお願いします。

あいがちなのが

自前主義はやめる。

様々な人(先生・栄養士さん・行政機関・NPO・生産者・・・)が関り、プログラムが進められるよう、役割分担「すみわけ」を行ってください。自前主義を抑えることが、そのプログラムの質の高さと、万全な安全対策につながります。

☆ 「まち」と「むら」の交流について

農業体験を受け入れているだけでは、活動の継続はできません。

《発生する要因・課題は・・・》

資金の確保

場所の確保(圃場・休憩場所・調理場・トイレ)

人(生産者・スタッフ・事務局)、人材確保

圃場の日常管理はだれがやる

広報活動はどうする

問題の解決方法(農家の場合)

農業体験を少し視点を変えて考えてみる



子ども達には保護者や先生が付き添ってきます。

すべてが消費者です。

「まち」と「むら」を往来するバイパスができます。

対面販売や直売所を作るチャンスです。

消費者のリサーチがいつもできます。

消費トレンドを探ることができる。

リピーターはニーズを持ち込みます。

農産物が直接欲しい、もっと体験させたい…

実は大切！農家の皆さん！

まさに、今！農業農村に一番必要なものが転がり込んできます。

《 私たちにとって、TPPは大きな問題です。》
しかし、農業体験や農村の文化を海外から持ち込むことはできません。消費者と交流し、言葉を交わし、共に汗を流すことで、TPPを恐れる必要はなくなります。そのためにも、一人よりも二人、二人よりも集落や地域で取り組んでみてはいかがでしょうか、「面倒くさい！」「そんなの無理」と言わないで、ぜひチャレンジしてみてください。

チャレンジする人、実際に受け入れる方へ

誰が中心になって受け入れるか？ 農家自身か？



立ち上げ当初は、自治会やJAさん、地域の協議会でも構いませんが…



早い時期に、NPO法人などを設立し、しがらみのない組織が中心となることをお勧めします。



責任が明確な組織、意見が自由に交わせる、発展性のある組織作りを目指してください。

NPO法人について

NPO法人は、様々な法的規則やある一定の義務を負わされます。また定められた法律や規則の中で活動を行わなくてはなりません。

一方、組織としての信用度は高まり、各種の補助事業や補助金は獲得しやすくなります。従って、組織を運営する者のモチベーションは向上し、全体のポテンシャルも大きいものになると認識しています。

組織を長続きさせる方法

活動組織に参加する人は、活動に対する意識が高く、高い価値観や可能性を持っています。その個性をコントロールできなければ、組織は崩壊してしまいます。かといって、押さえつけてしまえばある種閉塞感が生まれ、組織力が弱くなります。リーダーの役割と責任は重いものがあります。スタッフの創造性を引き出し、その能力を最大限発揮できるように努めて下さい。

活動から見えてくること

《何か「こと」を起こそうと思えば「人・もの・金」
という壁に必ずぶち当たります。》

人材育成

活動にあっては一つの目標や目的に向け、同じ価値観で動けること。

準備するもの

自前施設は無理にしても、せめて農作業の道具は参加者人数分準備したい。

資金繰り

事業補助金など積極的に申請、利用する。

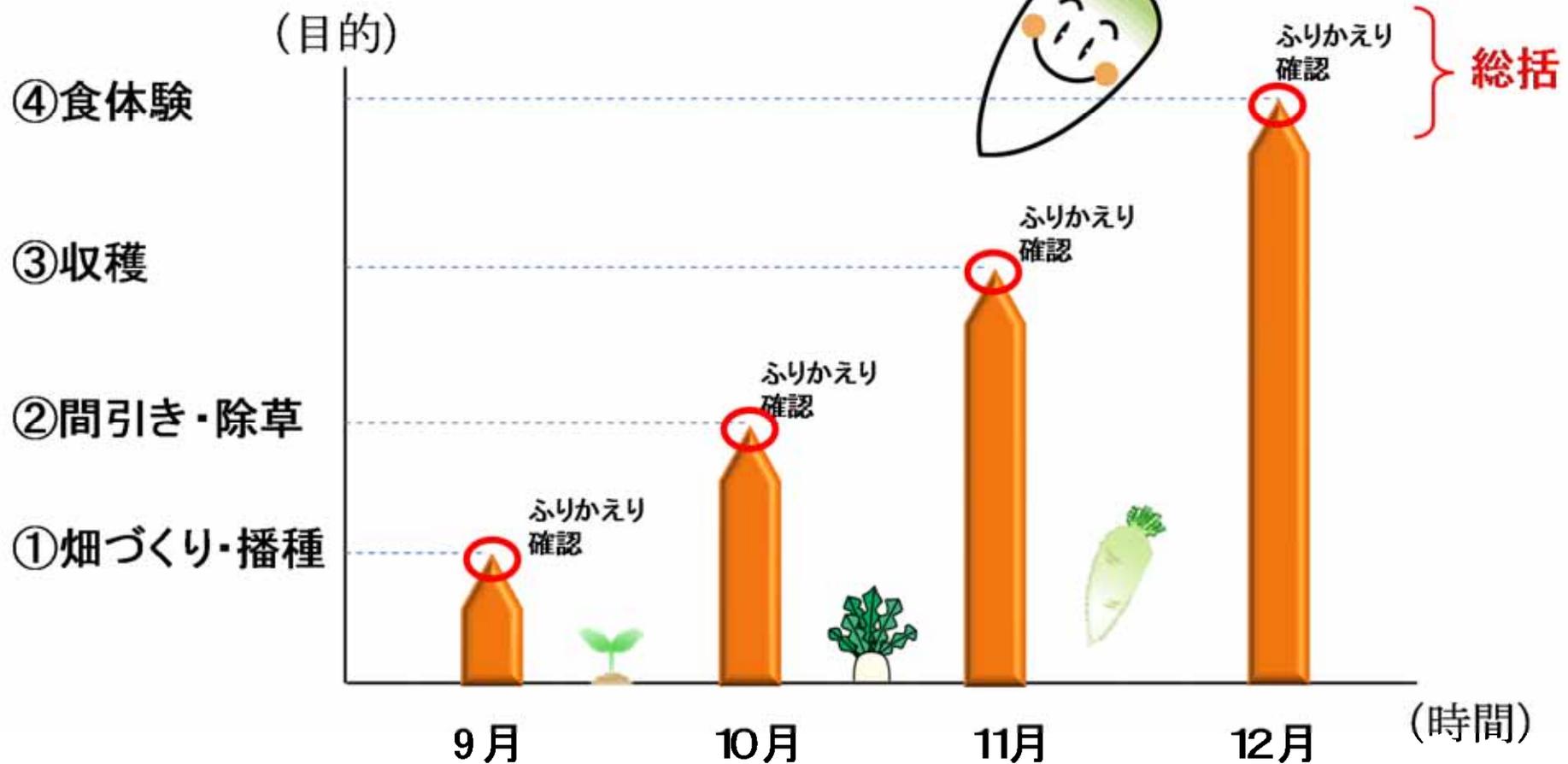
まだある大切なこと

NPO法人 = ボランティア活動ではありません、
いくらでもよいので、スタッフのインセンティブを確保すること。

過度なマスコミ露出は避ける。

飲みコミュニケーションばかり行わず、体験学習
会の後は必ず振り返りの会をとる。

プログラムの検証 (例;ダイコン作り)



大切なこと

- 1、作業毎の反省とふりかえり
- 2、作業間の管理について
- 3、総括と次への課題づくり

大人・食の主体を取り戻す体験



子ども・心耕す体験



クラインガルテン大富 《農家楽》